

第4学年国語科学習指導案

令和5年9月15日（金）5時間目
世田谷区立松沢小学校
第4学年3組

- 1 単元名 気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう
教材名 「ごんぎつね」（光村図書 4年下）

2 単元目標

- ◎様子や行動、会話などの気持ちを表す語句について理解を深めたり、登場人物の行動や気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えたりすることができる。
- ・様子や行動、会話などの気持ちを表す語句について理解を深めることができる。
〔知識及び技能（1）オ〕
 - ・登場人物の行動や気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えることができる。
〔思考力・判断力・表現力等（1）イ〕
 - ・積極的に登場人物の気持ちを想像し、学習課題に沿って、粘り強く登場人物の行動や気持ちの変化を捉えようとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 単元評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・様子や行動、会話などの気持ちを表す語句について理解を深めている。	・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えている。	・積極的に登場人物の気持ちを想像し、学習課題に沿って、粘り強く登場人物の行動や気持ちの変化を捉えようとしている。

4 単元について

（1）これまでの学習経験

3年生では、5つの教材文を通して、会話や行動などの叙述を基に、登場人物の気持ちを読み取ることを繰り返し学習してきた。また、読み取ったことを他の人と交流し、違いを見付けることで、自分の考えを深めてきた。

それに加え、4年生の文学的教材「白い帽子」「一つの花」では、登場人物や場面の様子を表す表現に気を付けて、場面と場面の移り変わりについても着目して学習してきた。

（2）本教材について

本教材は、第4学年で3番目に学習する文学的教材である。本教材では、5つの場面の移り変わりに伴って主人公であるごんの気持ちに変容していくのが特徴である。また、情景描写が豊富にあり、場面の移り変わりと結び付けて気持ちの変化を想像しやすい。

中学年分科会（第4学年）では、登場人物の気持ちを読み取るために次のことを「読みの手掛か

り」と捉えた。

<読みの手掛かり>

- ① ごんの心の声
- ② 登場人物の行動・様子
- ③ 登場人物の会話
- ④ 場所

これまで繰り返し学習してきた行動や気持ちを表す言葉だけでなく、情景描写からも登場人物の気持ちの変化を想像できるようにしたい。

5 児童の実態

本学級の児童は、これまでに、文学的教材「白いぼうし」や「一つの花」で登場人物の会話や行動、情景描写から登場人物の気持ちの変化を読み取る学習を行ってきた。叙述に基づいた読み取りを意識させることで、自分の考えをもちながら発言をすることができる児童が増えてきた。一方で、登場人物の気持ちを表す情景描写を見付けることができるが、そこから登場人物の気持ちを豊かに想像することが難しい児童もいる。

本単元では、言語活動を4つに分けて行っていく。第1に、登場人物のしたことや出来事を捉えさせるために「マップ」を取り入れる。マップを活用することで、場面全体の様子をつかむことができると考えた。第2に、叙述を基にごんとはどのような人物なのかを読み取るためにプロフィールの作成をする。第3に、出来事が書かれた看板付箋にごんの気持ちを書く。第4に、作品全体を通して、ごんの気持ちがどのように変化していったのかを捉えさせるために気持ち看板（「でかんばん」）を書く活動を行う。以上の4つの活動を行い、様子・行動・登場人物の気持ちの変化を具体的に想像していく力を身に付けられるようにする。

6 単元の位置付け

「読むこと」の指導事項 内容の（1）は学習過程に沿って、次のように構成している。

○構造と内容の把握 叙述を基に、文章の構成や展開を捉えたり、内容を理解したりすること。

○精査・解釈 文章の内容や形式に着目して読み、目的に応じて必要な情報を見付けることや書かれていること、あるいは書かれていないことについて、具体的に想像することなど。

○考えの形成 文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、自分の既存の知識や様々な体験と結び付けて感想をもったり考えをまとめたりしていくこと。

○共有 文章を読んで形成してきた自分の考えを表現し、互いの考えを認め合ったり、比較して違いに気付いたりすることを通して、自分の考えを広げていくこと。

知識・技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
語彙	イ 身近なことを表す語句の量を増やし、話しや文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすること。	イ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話しや文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。	イ 思考に関わる語句の量を増やし、話しや文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。

思考力・判断力・表現力等「C読むこと（文学的な文章）」領域の構成 (1) 指導事項

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
容 構 の 造 把 握 と 内	イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。	イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。	イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。
精 査 ・ 解 釈	エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。	エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像すること。	エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
考 え の 形 成	オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
共 有	カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

■第4学年 構造と系統[読むこと—説明的な文章] 光村図書 小学校国語 学習指導書

単元名・教材名	指導事項
場面と場面のつながりを考える 【白いぼうし】	○読み深めたいことは何かを、問いの形にしてはっきりさせる。 ○人物や場面の様子を表す言葉に気を付けて、場面と場面のつながりを見付ける。

特別な言葉に着目する 【一つの花】	○物語を読むときには、次の言葉に着目することで、作者の思いに迫ることができる。 ・題名に用いられる言葉 ・繰り返し用いられる言葉 ・会話の中で用いられる言葉 ・重要な場面で用いられる言葉
話し合って、考えを深める 【ごんぎつね】	○行動や気持ちを表す言葉とともに、情景からも、登場人物の気持ちを想像する。 ○場面と場面を、結び付けたり比べたりして、気持ちの変化を捉える。 ○他の人の考えや、自分とは違う見方を知ると、物語に対する考えを深める。
登場人物の変化と、出来事の関係性を捉える 【プラタナスの木】	○場面の移り変わりに気を付けて読み、登場人物の気持ちや考え方が表れている部分を見付ける。 ○それらを結び付けたり、関係付けたりして、どう変化したのかを想像する。 ○人物の変化に、どんな出来事がどのように関わっているのかを考える。
感じ方の違いを楽しむ 【初雪のふる日】	○物語の印象は、使われている言葉や表現から生まれる。着目する言葉や、そこから何を浮かべるかが違えば印象も変わってくる。 ○物語の何を、どのように受け止めたかを伝え合うと、同じ作品を新たな角度から味わうことができる。

7 研究主題に迫るための手だて（ユニバーサルデザインを意識した指導の工夫）

（1）掲示物の工夫（視覚化、ユニット化）

児童自身が学習の見通しをもったり、進め方を理解したりすることで、より主体的な学習になると考えた。そのため、学習の進め方や読みの手掛かりを掲示する。

学習の進め方

マイタイムでは、児童一人一人が本文の叙述を基に、看板の形をした付箋に登場人物に起こる出来事とその気持ちをまとめていく。児童が主体的に学習を進めていくためには、「どうすればよいか分からない」という状況になるべく少なくすることが重要である。そのため、マイタイムにおける学習の進め方を掲示する。そうすることで、掲示物を見ながら自分で学習を進めたり、行き詰まった際のヒントにしたりすることができると思った。

<マイタイム>

- ・登場人物の気持ちが分かる叙述を読み取る。（全文シートにサイドライン）
- ・登場人物の気持ちを想像してワークシートにまとめる。

読みの手掛かり

児童が登場人物の気持ちの変化を捉えられるように、読みの手掛かりを掲示する。具体的には
①ごんの心の声 ②登場人物の行動・様子 ③登場人物の会話 ④場所に注目させるようにする。
そうすることで、叙述を基に登場人物の気持ちをより想像できるようになると考えた。また、「気持ちを表す言葉」は、秘伝書に書かれている言葉を参照する。

(2) 一つのリーフレットにまとめる言語活動（視覚化、構造化、個別的な配慮）

本教材では「マップ」「プロフィール」「看板ふせん」「でかんばん」と4つの言語活動を通して、登場人物の気持ちの変化を捉え、深めていく。その活動の一つのリーフレット（通称：ごんフレット）にまとめることで、少しずつでき上がる達成感を味わいながら創り上げていく。

(3) 個に応じたヒントカードの工夫（焦点化、個別的な配慮）

単元を通して4つの言語活動を行うため、読みの手掛かりに応じてヒントカードを用意する。机間指導をしながら、児童の習熟度に合わせたヒントカードを用意する。ヒントカードを用いることで、どの児童も自信をもって言語活動に取り組めるようにし、登場人物の気持ちの変化を読み取れるようにする。

(4) 振り返りの視点の提示（視覚化、ユニット化）

児童の資質・能力を育むためには、児童が学習で何を、どのように学び、何ができるようになったかを自覚することが必要である。そのため、学習のまとめりに自身学びを振り返る時間を設定する。また、書き出しに困る児童がいることが予測できるため、「ふりかえり」の頭文字を使用した、振り返りの視点を提示する。具体的には、「ふ」は「深まったこと、不思議に思ったこと」、「り」は「理解できたこと（分かったこと）」、「か」は「考えたこと、感じたこと」、「え」は「え？と思ったこと」、「り」は「利用できそうなこと（次、生活の中で）」という提示物を提示する。

8 学び方（「うさ松の秘伝書」の項目番号）

言語形式	言語内容
○読み方 1. 主人公を見付ける。(③) 2. 出来事を整理する。(⑥)	○読み方 1. どの場面にも出てくる人物を探す。行動、様子、会話に注目してどんな人物か考える。 主人公「ごん」 2. 出来事や場所・時間が変わるときに注目する。 ①:「ごんのいたずら」ごんが川で魚を盗む。 ②:「ごんの後悔」兵十のおっかあが亡くなり、魚を盗んだことを後悔する。 ③:「ごんの償い」兵十の家に栗や松茸を持っていく。 ④:「ごんの失望」償いが神様の仕業と捉えられていることに嘆く。 ⑤:「ごんの死」思いがすれ違っていたが死を通してつながる。
○まとめ方 1. 物語の全体像を把握する。 (⑨⑭)	○まとめ方 1. 舞台や場面の移り変わりをマップにまとめる。 ・読みの手掛かりを基に、出来事を読み取る。 ・場所と出来事をまとめてあらすじを捉える。

<p>2. 登場人物のプロフィールにまとめる。(17)</p>	<p><読みの手掛かり></p> <p>① ごんの心の声 (※第2、3時では使わない。)</p> <p>② 登場人物の行動・様子</p> <p>③ 登場人物の会話</p> <p>④ 場所</p> <p>2. リーフレットにごんのプロフィールをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うさ松の秘伝書でプロフィールについておさえる。 ・読みの手掛かりを基に、ごんの性格や特徴などを読み取り、プロフィールにまとめる。
---------------------------------	---

9 学習指導計画（9時間扱い）

次	時	学習活動	○指導内容	◇支援 ★評価
一 学習の見通しをもつ	1	学習の見通しをもとう。		
		<p>○単元の目標を知る。</p> <p>○主人公について知る。</p> <p>○範読を聞く。</p> <p>○単元計画を立てる。</p> <p>○次時の学習を確認する。</p>	<p>○ごんぎつねの学習を通して一つのリーフレットを作ることを伝えること。</p> <p>○主人公とはどのような存在なのか知ること。</p> <p>○場面を想像しながら話を聞くこと。</p> <p>○単元のねらいと計画を確認すること。</p>	<p>◇完成版のリーフレットを見せて学習の見通しをもてるようにする。</p> <p>◇秘伝書③を活用し、主人公を確認する。</p> <p>◇全文シートを配付し、思ったことや感じたことを自由に書き込んでもよいと伝える。</p>
二 内容の大体を捉えてごんの気持ちを読み取る	2・3	物語の全体を見通して、あらすじをマップにまとめよう。		
		○看板付箋を活用して出来事をマップに書き込む。	○物語全体を捉え、叙述を基に看板付箋を作成させること。	<p>◇学習の進め方、読みの手掛かりを提示する。</p> <p>◇マップに出来事を書くことができない児童には、場所に応じたヒントカードを用意する。</p>

	<p>○自分が作ったマップを友達と交流する。</p> <p>○全体で交流する。</p> <p>○振り返りを行う。</p>	<p>○自分と友達の考えの違いに気づき、考えを深めさせるようにすること。</p> <p>○自分の看板付箋に書き足せないかを考えること。</p> <p>○振り返りの視点を知ること。</p>	<p>★様子や行動、会話などの気持ちを表す語句について理解を深めている。</p> <p>◇振り返りの視点を明確に示す。</p>
4・5	<p>ごんは、どんなきつねなのか読み取り、プロフィールにまとめよう。</p>		
	<p>○自己紹介の例示を知って、プロフィールの内容について知る。</p> <p>○ごんの人物像を考え、リーフレットにまとめる。</p> <p>○ごんの人物像について友達と考えを共有する。</p> <p>○友達の考えを参考に見直す。</p> <p>○全体で交流する。</p> <p>○振り返りを行う。</p>	<p>○プロフィールを書く視点を共有すること。</p> <p>○読みの手掛かりを基に、ごんの人物像を読み取ること。</p> <p>○自分と友達の考えの違いに気づき、考えを深めさせるようにすること。</p> <p>○相違点を捉えながら交流すること。</p> <p>○自分のプロフィールに書き足せないかを考えること。</p> <p>○学習を振り返ること。</p>	<p>◇プロフィールに示す視点を提示する。</p> <p>◇机間指導をしながら、相違点に着目できるように助言する。</p> <p>★様子や行動、会話などの気持ちを表す語句について理解を深めている。</p> <p>◇振り返りの視点を明確に示す。</p>
6 本時	<p>それぞれの出来事での、ごんの気持ちを読み取ろう。</p>		
	<p>○物語の出来事を基に、ごんの気持ちを看板付箋に記入する。</p> <p>○友達と交流する。</p>	<p>○出来事から登場人物の気持ちを読み取ること。</p> <p>○友達との相違点を基に考え</p>	<p>◇看板付箋に書く例示を示し、学習の見通しをもてるようにする。</p> <p>◇粘り強く取り組もうとしてい</p>

		<p>○全体で交流する。</p> <p>○振り返りを行う。</p>	<p>を伝え合うこと。</p> <p>○自分の看板付箋に書き足せないかを考えること。</p> <p>○振り返りの視点に沿って学習を振り返ること。</p>	<p>る児童を価値付ける。</p> <p>★読みの手掛かりを活用しながら、登場人物の気持ちを捉えている。</p> <p>◇振り返りの視点を明確に示す。</p>
	7・8	<div> <p>叙述を基に、ごんの気持ちの変化を読み取ろう。</p> </div>		
		<p>○気持ちを記入した看板付箋を並び替える。</p> <p>○ごんの気持ちの変化を「でかんばん」にまとめる。</p> <p>○振り返りを行う。</p>	<p>○場面の移り変わりを確認すること。</p> <p>○気持ちの変化を看板付箋を用いて、「でかんばん」にまとめさせること。</p> <p>○振り返りの視点に沿って学習を振り返ること。</p>	<p>◇まとめ方の例を示す。</p> <p>◇並び替えた看板付箋を使って「でかんばん」にまとめられるようにする。</p> <p>★登場人物の行動や気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えている。</p> <p>◇振り返りの視点を明確に示す。</p>
三 学習したことを振り返る	9	<div> <p>学習を振り返り、思ったことを話し合おう。</p> </div>		
		<p>○書いた文を友達と読み合い、単元を通して学んだことをまとめる。</p> <p>○友達と交流する。</p> <p>○全体で交流する。</p>	<p>○気付いたこと、学んだことを書くこと。</p> <p>○友達と書いた文章を読み合い感想を伝え合うこと。</p>	

10 価値付けの工夫

「教師からの評価による価値付け」「児童同士の交流による価値付け」

教師からの 評価による 価値付け	机間指導	読みの手掛かりを活用しながら、登場人物の気持ちを読み取る姿勢を称賛する。
	全体共有	登場人物の「登場人物の会話・行動」「場所」「出来事」「ごん の気持ち」に着目して、登場人物の適切な気持ちを考えている 発言や記述を称賛する。
	評価	児童の記述や発言から、学習のねらい（身に付けさせたい力） に応じた評価を心掛ける。

児童同士の 交流による 価値付け	記述を見せ、考 えを伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・読みの手掛かりを活用して、読み取ったことをワークシー トにまとめているかについて相互評価、自己評価をする機 会とする。 ・着目した表現などの根拠を明確にしながら、自分の考えを 伝え合う。
------------------------	--------------------	---

1.1 本時の指導（6／9時）

（1）目標

それぞれの出来事でのごんの気持ちを叙述から読み取ることができる。

（2）展開

学習活動	○指導内容 ■予想されるつまずき	◇支援（全）…全体（個）…個別 ★評価
1. 前時までの学習を思い出し、 本時のめあてを確認する。	○学習を思い出し、めあてを 確認すること。	◇前時まで学習した掲示物を活 用して、想起する。（全）
それぞれの出来事での、ごんの気持ちを読み取ろう。		
2. 物語の出来事を基に、ごんの 気持ちを看板付箋に記入す る。	○気持ちを読み取る上で大 切だと思う言葉にサイド ラインを引くこと。	◇掲示物を使って読みの手掛か りを確認する。（全）
<div>マイタイム</div> <div> <気持ちを考える上での手掛かり> ① ごんの心の声 ② 登場人物の行動・様子 ③ 登場人物の会話 ④ 場所 </div>	○看板付箋にはごんになり きって気持ちを書くこと。	◇気持ちを表す言葉を確認する。 （秘伝書「言葉の宝箱④」）（全）
<div>■気持ちを書くことができ ない。</div>		◇気持ちが書かれたヒントカー ドを手掛かりに、ごんの気持ち を読み取れるようにする。（個）
3. ペアで交流する。	○ペア交流を繰り返し、目安 として4～5人と交流す ること。	◇視点に沿って、考えを伝えられ るように交流の仕方を提示す る。（全）
<div>シェアタイム</div> <div>プラスタイム</div>	○相違点に着目して考えを 交流し、青鉛筆で加筆修正 すること。	
4. 全体で交流する。		◇叙述を基に、ごんの気持ちを読 み取れている児童を見付けて 共有する。（全）
<div>フォローアップタイム</div>		
○5つの出来事のうち、「②ごんの 後悔」「③ごんの償い」の心情を 全体でおさえる。		
5. 自分の考えを見直し、加筆修 正をする。	○友達の考えを聞いて、差異 点やなるほどと思った発 言は、青鉛筆で付け足すこ と。	◇叙述に着目して、ごんの気持ち を書き出している児童を取り 上げ価値付ける。（全）
<div>プラスタイム</div>	○振り返りの視点に沿って	

6. 本時の振り返りをして、次時の学習を確認する。	学習を振り返ること。	<p>★読みの手掛かりを活用しながら、登場人物の気持ちを捉えている。(リーフレット)</p> <p>◇振り返りの視点を提示する。(全)</p>
---------------------------	------------	---

1 2 板書計画

<div style="border: 1px solid black; height: 200px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">あらすじマップ</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈読みの手掛かり〉</p> <p>①ごんの心の声</p> <p>②登場人物の行動・様子</p> <p>③登場人物の会話</p> <p>④場所</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>め それぞれの出来事での、ごんの気持ちを読み取ろう。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう。</p> </div>	<p>ごんぎつね</p>
---	---	---	---	--------------

